

国語科の学習を進めるにあたって 第三学年

☆3年国語科の課題

場面や情景、心情や論理を的確に読み取り、書き手や話し手の意図や作品の主題を理解し、解釈し批評した事柄を適切に表現する力を養う。

課題克服のために

- ① 語句の意味や働きを習得して言語感覚を磨き合い、学び合う授業を皆で創ります。
- ② 2年次の国語科の学習を参考に、各自目標を設定して計画を立て、実行します。

発展的な学習のために

- ① ノートのメモ欄の活用で新たな学習課題を設定し、自主学習・補充学習で取り組みます。
- ② 補充教材やワークシートは学習後もファイリングし、その後の発展学習で活用します。

☆授業の進め方

- ① チャイム学習で、基礎的知識の習得する学習に取り組みます。
- ② 多様な言語活動で語句や表現に即して読みを深め、表現する学習を継続して行います。

☆学習する上で注意してほしいこと

「話すこと・書くこと」は自らが発信する表現活動なので苦手意識をもつ人は多いと思いますが、実は最も難しいのは「聞く（聴く）こと」だと言われています。耳から入る音声をただ受け止めるだけと考えてしまうと簡単ですが、「聞き取る」「聞き分ける」ことができないと、話の要点を的確にとらえて、自分の考えや理解を広げたり、深めたりしていく主体的な聴き方や考える力が身に付きません。先生の説明や友達の発言を、視野を広げ理解を深めるための貴重な情報として捉え、学びの基礎である集中力、吸収力を高めていきましょう。

☆家庭学習の進め方

授業で身に付けた基礎的・基本的な言葉の知識や漢字・語句・文法練習は、必ず家庭学習で復習しましょう。作品やワークシートは期日に提出できるようにしましょう。また、必要に応じて復習や自主的な学習に取り組みましょう。

語句・語彙力や読解力を高めるための読書も必須です。授業での読書紹介や様々なブックリストを参考に、読む本の世界を広げ、読書生活を向上させていきましょう。

また、家族や地域、友人たちとの会話や対話も大切です。さまざまな人との関わりから身に付く言葉の力は一生の財産、人生の宝物になります。心を開いて声を掛け合い、言葉を交わし合いましょう。

☆テスト前の学習

定期考査では、文章の読解、漢字の読み書き、語句・文法の知識、古典（古文と漢文）など、多分野にわたった問題が出題されます。授業時の復習はもとより、出題範囲（教科書やプリント、ワークシート）の文章の読み込みを深め、感想や解釈、意見などが適切に記述できるようにしておきましょう。また、授業時に朗読・暗唱した作品は覚え直すこと。用語やキーワードを説明する力も求められます。計画的に学習に取り組み、長期休業中の補充教室、学習相談等も活用しましょう。

☆一年間の学習内容

分 野	学 習 内 容	分 野	学 習 内 容
文学的文章	・詩「世界はうつくしいと」 「挨拶-原爆の写真によせて」 「初恋」 「わたしを束ねないで」 「初日」 ・小説「握手」「故郷」 ・随筆「言葉の釣り糸を垂らす」 「温かいスープ」「律儀な桜」 ・俳句「俳句を味わう」 ・俳句・解説「俳句の可能性」	論理的文章	・論説 「作られた「物語」を超えて」 「複数の意見を読んで、考えよう」 ー正解が一つに決まらない課題と向き合う」 「それでも、言葉を」
		古 典	・古文 「君待つとー万葉・古今・新古今」 「夏草ー「おくのほそ道」」 ・漢文・解説 「学びて時に之を習ふー「論語」から」 ・古典・解説「和歌の世界」 「つながる古典」「古典名作選」 ・古文・音読「古今和歌集 仮名序」
書 く	・論理の展開を意識して書こう ・論理の展開を整える ・考えを効果的に伝えよう ・三年間の歩みを振り返ろう ・俳句を創ろう		
話す・聞く	・意見を聞き、適切さを判断する ・説得力のある構成を考えよう ・聞き上手になろう ・話し合いを効果的に進めよう ・合意形成に向けて話し合おう	読 書	・「私の一冊」を探しにいこう ・本は世界の扉
通 年			
【漢字と語句】【書写】【文法】			

☆評価について

知識及び技能	思考力・判断力・表現力			主体的に学習に取り組む態度
言葉の特徴や使い方の扱い方 我が国の言語文化	話すこと 聞くこと	書くこと	読む力	
評価の方法	評価の方法	評価の方法	評価の方法	評価の方法
・授業観察 ・ワークシート ・ノート ・定期テスト ・小テスト（漢字の読み書き、語句、文法など） ・課題(暗唱など) ・提出物 ・書写作品 ・音読 ・創作	・授業観察 ・ワークシート ・ノート ・定期テスト ・小テスト(聞き取り学習など) ・スピーチ、討論、話し合い活動など	・授業観察 ・ワークシート ・ノート ・定期テスト ・作文(意見文、感想文など) ・創作	・授業観察 ・ワークシート ・ノート ・定期テスト ・作文(意見文、感想文など) ・音読、朗読	・授業観察 ・ワークシート ・ノート ・作文 ・提出物 ・作品 ・発表 ＊上記の取り組みや振り返りの記述等から総合的に判断する。

社会科の学習を進めるにあたって(3年生)

◇3年の課題

- ① 歴史・公民分野ともに、重要事項を理解することが大切になります。教科書や資料集などから何が重要かを見出し、自分の意見にまとめることを心掛けたいです。
- ② 社会的事象を論理的に考えることがやや苦手な生徒がいます。

それを克服するために

- ① 自分から率先して積極的に発表する、前向きな意識を持つようにしましょう。
- ② 授業中に積極的に授業の振り返りのメモを取り、授業内容を明確にしましょう。

発展的な学習のために

- ① 記述を中心とした振り返りのまとめをおこない、論理的に考える習慣を身に付けましょう。
- ② 社会的事象に積極的に目を向け、論理的な思考力を養いましょう。

◇授業の進め方

- ①プリントを配布します。ファイルにまとめ、なくさないようにしましょう。
- ②学習内容を、資料集などを使って確認していきます。
- ③問題シートを使って学習の確認を行います。
- ④1・2年生の復習を行い、基礎的・基本的な事項を確認します。

◇学習する上で注意してほしいこと

- ①授業で使うものを忘れないようにしましょう。普段使うものは、次の通りです。
歴史の持ち物〔教科書・資料集・ノート〕
公民の持ち物〔教科書・資料集・ファイル・タブレット端末〕
- ②授業の前は、前の授業で何をやったか確認をしておきましょう。
- ③毎時間テーマに基づいて工夫してノートを完成させましょう。
だちの話を良く聞きましょう。
参加しましょう。
- ④先生や友
⑤よく考えて、授業に
⑥自分の考えを発表できるように

◇家庭学習の進め方

- ①授業中終わらなかったプリントの作業やまとめをしましょう。
- ②授業があった日の授業内容を、問題ワークを使って復習しましょう。
- ③ 基礎的・基本的な事項の確認をしましょう
- ④ニュース番組や新聞を通して、世界的視野の中で日本で起こっている出来事を捉え、社会情勢
見極める力を養いましょう。

◇テスト前の学習

〈歴史的分野〉

- ① プリント・教科書で復習し、家庭学習用ノートをつくり再度まとめてみるのもいいと思います。
- ②年表を使い、できごとと整理（どこで・だれが・何をした？・その結果？）をしましょう。
- ③できごとを丸暗記するのではなく、原因や影響など関連づけて大きな流れをつかみましょう
- ④テーマ（タイトル）ごとにプリントやノートを見直し、テーマを深めるための書き込みをしましょう。

〈公民的分野〉

- ① 「点数をとる」ための勉強だけではなく、「日本の社会の一員となる」「世の中を知る」勉強をしましょう。
- ② 日本の「しくみ」や「きまり」を丸暗記するのではなく、自分に必要なこととして理解しましょう。
- ③ 学校の授業の復習をしましょう。
- ④ テーマ（タイトル）ごとにプリントを見直し、テーマを深めるための書き込みをしましょう。

◇1年間の学習内容

月	前 期		月	後 期	
4	〈歴史的分野〉 明治維新 富国強兵と文明開化	〈公民的分野〉 私たちの暮らしと現代社会 情報社会 少子高齢社会 現代につながる伝統と文化 私たちがつくるこれからの社会	10	現代の日本と私たち 戦後日本の出発 冷戦と日本の発展	三権分立と私たちの政治参加 国会 内閣 裁判所
5	近代的な国際関係 立憲制国家の成立 日清・日露戦争		11	新たな時代の日本と世界 〈公民的分野〉	地方自治住民の参加 経済 私たちの暮らしと経済 市場の仕組みと労働
6	日清・日露戦争 近代産業と近代の文化	個人を尊重する日本国憲法 日本国憲法と国民主権	12	国際 国際社会の私たち 国際平和の平和を目指して 国際社会が抱える課題	金融の仕組みと財政の役割 消費生活と経済活動
7	二度の世界大戦と日本 第一次世界大戦と日本	基本的人権の尊重 ・自由権 ・平等権 ・社会権	1		企業の生産の仕組みと参加
9	大正デモクラシー 世界恐慌と日本の中国侵略	平和主義 民主政治 民主政治と日本の政治	2		持続可能な未来の社会へ
10	第二次世界大戦と日本		3		

◇評価

- 1、知識・技能
*評価方法：定期考査、小テスト、プリント
・社会的事項について知識を身につけ、理解しているか
・さまざまな資料から、地理的特色や歴史的特色を導きだすことができるか
- 2、思考・判断・表現
*評価方法：定期考査、小テスト、プリント、レポート
・さまざまな資料から、地理的特色や歴史的特色などと関連付けて、わかりやすく表現することができるか
- 3、主体的に学習に取り組む態度
*授業時の取り組み、レポートを含む提出物、ノート、小テスト、レポート
・レポート、ノート等の記述
・授業に取り組む姿勢や発言

数学の学習を進めるにあたって 第3学年

☆3年数学の課題は

課題は：

- ① 数の平方根を含む四則演算の基礎の定着。
- ② 多項式を含む四則計算の基礎の定着。
- ③ 事象を数学的に一般化して考えること。
- ④ 自分の考えを数学的な表現を用いてまとめて言語化（文章化）すること。

それを克服させるために：

- ① 中学生としての良き学習習慣を身につける。
- ② 単元ごとにテストを実施し、達成度と課題を把握して解決していく。
- ③ タブレットを活用し、基礎の繰り返し練習を行う。
- ④ 多様な考え方を生徒相互で共有する機会を増やす。

発展的な学習のために：

- ① 学んだことをもとにして、身近な問題や数学的な問題の解決方法について考える。
- ② 多様な考え方を追求することにより、数学に対する見方や考え方を深める。
- ③ 身の回りのことを数学的に見て、考えることができる。

☆授業の進め方

- ① 授業の課題を把握し、見通しをたてる。
- ② 自分の考えをもち、問題を解決する。
- ③ 友達の考えを知って共通点や違いを発見したり、話し合ったりする。
- ④ 授業を振り返って、分かったことや疑問に思ったことをまとめ、自己評価をする。
- ⑤ 新たな課題を見つけ、さらに考えを深める。
- ⑥ ワークシートや問題集に取り組み、基礎・基本を確認する。
- ⑦ 単元テストや小テストで自分の達成度と課題を把握し、学習への取り組み方を見直ししながら、分からない部分を復習する。

☆学習する上で注意してほしいこと

- ① 授業に必要な持ち物（教科書・ノート・問題集・筆記用具）を忘れないよう、毎回必ず準備する。学習内容によって、三角定規・コンパスが必要な場合もあるので、予め用意しておく。
- ② 授業中は先生からの指示をよく聞き、「話を聞く時間」、「自分で考える時間」、「友達と考えを共有する時間」の区別をしっかりとつけ、メリハリのある授業にする。
- ③ 黒板やモニターの内容は、色分けなどをしてノートやプリントに書く。気が付いたことや大切だと思ったこと、疑問に思ったことなどを書き込み、自分なりに工夫してまとめるとよい。
- ④ 課題に対して積極的に考え、見通しをたてて自分の考えをもつ。友達の考えを聞き、自分の考えを伝える。さらに、新たな課題について考察する姿勢をもつ
- ⑤ 疑問に思ったことや分からないことは、そのままにせず質問する。
- ⑥ 宿題や提出物は誠実に取り組み、期限を守って提出する。未提出ということがないようにする。

☆家庭学習の進め方

- ① 学習した内容は、教科書やノートを使って、その日のうちに復習をする。
- ② 問題集などを利用して問題演習をする。
- ③ 問題を解いたら必ず答え合わせを行い、わからなかったことや、間違えたところを確認し、自分の課題を確認する。

☆テスト前の学習

- ① 授業で行ったことを振り返り、ノートや教科書をよく見直す。
- ② 章末問題に取り組む。
- ③ 問題集の問題を解く。すべて解き終えたら、一度間違えた問題や分からなかった問題などを何度も解き直し、理解できるまで行うこと。
- ④ ノートや問題集のまとめをして提出の準備をする。

☆1年間の学習内容

前 期	後 期
第1章 多項式 1. 多項式の計算 2. 因数分解 3. 式の計算の利用 第2章 平方根 1. 平方根 2. 混合をふくむ式の計算 3. 平方根の利用 第3章 2次方程式 1. 2次方程式とその解き方 2. 2次方程式の利用 第4章 関数 $y=ax^2$ 1. 関数 $y=ax^2$ 2. 関数 $y=ax^2$ の性質と調べ方 3. いろいろな関数の利用	第5章 相似な図形 1. 相似な図形 2. 平行線と比 3. 相似な図形の面積と体積 第6章 円 1. 円周角の定理 2. 円周角の定理の利用 第7章 三平方の定理 1. 三平方の定理 2. 三平方の定理の利用 第8章 標本調査 1. 標本調査 ○3年間のまとめ 問題演習

☆評価について

1 知識及び技能

☆評価方法：定期考査、単元テスト、小テスト、プリント 等

- ・基礎的な概念や原理・法則を理解している。
- ・学んだことがらについて正しい知識を身につけている。
- ・事象を数理的に捉えたり、数学的に解釈したりしている。
- ・数学的に表現・処理したりする技能を身につけている。

2 思考力・判断力・表現力

☆評価方法：定期考査、単元テスト、小テスト、プリント、話し合い活動、課題、発表 等

- ・数学を活用して事象を論理的に考察することができる。
- ・数量や図形などの性質を見だし、統合的・発展的に考察することができる。
- ・数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現することができる。
- ・数学的な知識を活用して、さらに探究した内容が表現されている。

3 主体的に学習に取り組む態度

☆評価方法：授業や課題への取り組み、プリント、話し合い活動、学びの足跡、発表 等

- ・授業に取り組む姿勢や積極的な発言。
- ・学びの足跡やプリントの記述。

以上を総合的にまとめ評価する。

理科の学習を進めるにあたって 第3学年

☆3年理科の課題は 課題は：

- ① 興味関心は全体的によく、学習に関しても前向きである。発言も多く、お互いに声を掛け合って学習することも積極的に行う。しかし、学習内容が時間とともに忘れてしまう生徒が多い。
 - ② 自分の考えをまとめて言語化（文章化）することが苦手な面がある。
- それを克服するために：
- ① 授業で勉強したことの振り返りを友達同士で話し合う（言語化する）ことにより学習の効果が上がる。その時メモを取り、内容を明確にすることが大切である。
 - ② 実験観察が終わったら、結果と考察をレポートにして提出する。考察を書く際、実験目的をもとに、得られた結果から論理的に考え、表現することが大切である。

☆授業の進め方

- ① その時間の目標や課題を理解する。
- ② 課題に対して予想を立て、観察、実験を行う。
- ③ 結果から見出したことを整理し、発表する力をつける。
- ④ 自然科学の考え方を身につける。
- ⑤ 教科書やプリント等を使って重要な用語や考え方を確認し、学習内容をより深く定着させる。
- ⑥ ワークシートや問題集に取り組み、基礎・基本を確認する。

☆学習する上で注意してほしいこと

- ① 授業に必要な物は忘れない。
- ② 授業中、先生の説明や友達の発言をしっかりと聞く。友達の発言の中にも考え方のヒントが示されているので、自分の考え方の参考にする。
- ③ ノートやワークシートをきちんととる。板書事項はもちろんのこと、自分なりに工夫する。プリントはノートに貼る。
- ④ わからないときはそのままにせず、必ず質問する。疑問をもつとよい。
- ⑤ 実験、観察は積極的に行う。自分でやってみて自分の目で確かめ記憶にとどめることが必要。他の班員に任せただけにはしない。
- ⑥ 宿題、提出物は誠実に取り組み、期限を守って提出する。未提出ということがないようにする。

☆家庭学習の進め方

- ① その日の授業内容はその日に復習する。予習より復習が大切。
- ② 教科書・ノート(プリント類)を見直す。
- ③ 授業で学習した内容を、ワーク等で演習する。

☆テスト前の学習

- ① 教科書、ノート、プリントをよく見直す。
- ② ワークの問題を解く。わからないところはそのままにせず、解説を読んだり、質問したりする。
- ③ 観察、実験のまとめを見直す。結果だけでなく、観察、実験の注意なども確認をすること。

☆1年間の学習内容

	物理化学分野	生物地学分野
4月	＜化学分野＞ 化学変化とイオン 1 水溶液とイオン 2 酸、アルカリとイオン 3 化学変化と電池	＜生物分野＞ 生命の連続性 1 生物の成長と生殖 2 遺伝の規則性と遺伝子 3 生物の多様性と進化
5月		
6月		
7月		
9月		
10月		
11月	＜物理分野＞ 運動とエネルギー 1 物体の運動 2 力のはたらき方 3 エネルギーと仕事	＜地学分野＞ 地球と宇宙 1 地球の運動と天体の動き 2 月と金星の見え方 3 宇宙の広がり
12月		
1月		
2月		
3月	＜終章＞地球と私たちの未来のために 1 自然のなかの生物 2 自然環境の調査と保全 3 科学技術と人間 4 持続可能な社会をつくるために	

☆評価

1 知識及び技能

☆評価方法：定期テスト、小テスト、プリント

- 基本的な概念、法則を理解している
- 学んだことがらについて正しい知識を身につけている。
- 実験、観察の様々なデータと、理解した法則と内容が一致することができる。
- 観察、実験で使う器具の基本操作が身についている。
- 観察、実験のデータを分析し、傾向や法則を見つけることができる。
- 実験、観察のデータを論理的に考えることができる。

2 思考力・判断力・表現力

☆評価方法：定期テスト、小テスト、プリント、レポート、話し合い活動

- 観察、実験のデータを分析し、傾向や法則を見つけることができる。
- 観察、実験の考察を言語化できる。
- 観察、実験のデータを論理的にまとめることができる。

以上のことがらは個人の内面での理解はもとより、論述や発表、話し合いで意見を共有できるものとする。

- 観察、実験を安全かつ正しい方法を身につけ、かつ実践することができる。

3 主体的に学習に取り組む態度

☆評価方法：授業への取り組み、応用課題の取り組み、レポートなどの提出物 等

- 授業態度や発言や記録
- 提出物

以上を総合的にまとめ評価する。

音楽の学習を進めるにあたって 第3学年

☆課題

興味・関心をもち様々な活動に積極的に取り組む姿勢が多く見られます。一方で、自分の声を人に聞かれることに遠慮があり表現力が乏しくなることや、音楽を聴き感受したことを言葉で表現することに課題があります。

☆課題を克服するために

- ① ピアノ等で歌唱練習を行い、歌唱表現のアドバイスをします。
- ② 鑑賞時にグループで感受したことを互いに発表しあう時間を取り、多角的な視点や言葉の表現を知る機会を設けます。

☆発展的な学習のために

- ・歌詞の内容や作曲者の意図をくみ取り、自分たちならどのように表現するのか考え、豊かな表現活動につなげられるようにします。
- ・演奏を録音し、客観的に聴く時間を設けます。聴くことにより、課題に気付く力や鑑賞能力の向上につなげます。

☆授業の進め方

- ① 持ち物は教科書・合唱曲集・ファイル・筆記用具・タブレットです。
- ② 歌唱では、発声練習・パート練習・合唱練習を状況に応じて行います。
- ③ 鑑賞では、プリントを使用し、作曲者・楽器・音楽構成などについて学習をします。
- ④ その他、授業時数に応じて創作、楽器実技などを学習します。
- ⑤ 単元ごとに実技テストを行います。課題は授業内で練習します。

☆学習する上で注意してほしいこと

- どの題材も一生懸命に取り組み、授業を作っているひとりとしての意識を強く持ちましょう。
- ① 「話を聞く時間」と「自分を表現する時間」の区別をつけましょう。
 - ② 実技では、どの形態の練習も積極的に取り組みましょう。
 - ③ プリントの内容は、工夫して丁寧に完成させましょう。

☆家庭学習の進め方

家庭では、様々なジャンルの音楽にふれ、音に対する感性を磨いてください。

☆テスト前の学習

- ① 授業で行ったことを振り返り、教科書やプリントをよく見直しましょう。
- ② 実技テストは、題材によって一人で行ったり、複数で行ったりします。授業での練習＝実技テストという心構えで臨んでください。

☆1年間の学習内容

月	単元	月	単元
4月	「歌唱：日本の歌」	10月	「鑑賞：世界の諸民族の音楽」
5月	「歌唱：大地讃頌」 「器楽：三味線」	11月	「鑑賞：社会を映し出す音楽」
6月	「表現：日本舞踊」 「歌唱：混声三・四部合唱」	12月	「鑑賞：ポピュラー音楽」
7月	「鑑賞：ブルタバ」	1月	「創作：VOCALOID」
9月	「歌唱：混声三・四部合唱」	2月 3月	「歌唱：卒業式歌」

- 実際には、歌唱・鑑賞・理論が重複して授業は進行します。
- 状況によって実施する順番が変更される可能性があります。

☆評価について

①知識・技能

曲想と音楽の構造や背景などとの関わりや音楽の多様性を理解している。

創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけ表現している。

- ・評価内容…歌唱時の正しい姿勢、発声、音程、器楽の正しい奏法、音楽記号の理解と表現する技能、作曲家、楽曲、演奏楽器、歴史、楽曲がもつ音楽性の理解

- ・評価方法…取組過程・実技テスト・定期考査・プリントの内容

②思考・判断・表現

音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考える。どのように表現するかについて思いや意図をもち表現をしたり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。

- ・評価内容…楽曲がもつ音楽性の理解、歌詞への理解、音楽記号の理解とそれに伴う表現力、どのように表現するか思いや意図を持っている

- ・評価方法…取組過程・実技テスト・定期考査・プリントの内容

③主体的に学習に取り組む態度

音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協同的に表現及び鑑賞の活動に取り組もうとしている。

- ・評価内容…授業中の態度や活動の主体性

- ・評価方法…取組過程・提出物・プリントの内容

美術の学習を進めるにあたって（３年生）

◇ 授業の進め方

- ①持ち物は、筆記用具、教科書、レタリング字典、タブレット、手さげ、アクリルガッシュ、ペーパーパレット、スケッチブック、ファイルです。必要に応じて小型の鉛筆削り、油性ペン、色鉛筆 等を使うこともあります。レタリング字典、手さげ、アクリルガッシュ、ペーパーパレット、スケッチブック、ファイルは教材費で購入しています。
- ②3年生では外部企業と連携した授業が多く、「干し芋のパッケージデザイン」「ゆかたのデザイン」「旧原宿駅舎のペーパークラフト」などに取り組みます。関連作品の鑑賞を通して題材を学び、示された手順・方法に沿って制作を進めます。より良い作品を目指す意欲と、計画的に進めて期限内に完成させる姿勢を大切にします。
- ③鑑賞ではワークシートを使い、有名な作品や作者、技法や美術のジャンルなどについて学習します。单元の中で、他の人が作った作品を鑑賞することもあります。また、そこから感じ取ったことを文章等で表現をしたり、話し合い活動によって考えを深めていきます。

◇ 学習する上で注意して欲しいこと

- ① 忘れ物に気を付けてください。
- ② 期限内に満足のいく形で作品を完成させられるように、集中して制作活動に取り組みましょう。
- ③ 提出の期限は守ってください。提出物には記名を忘れないようにしましょう。
- ④ 美術室の備品は全校生徒が使うものです。大切に扱い、次の人が気持ちよく使えるように、片付けまでしっかりと行いましょう。
- ⑤ １時間１時間の授業を大切にするために、チャイムと同時に始められるようにしましょう。
- ⑥ 課題内容によって衣服に汚れが付く恐れがあります。ジャージ等を上に着て作業を行いましょう。

◇ 家庭学習の進め方

- ① 授業内で完成できなかった場合など、一部の課題を宿題とすることや、放課後に制作をしてもらうことがあります。計画的に制作を進め、提出期限を守りましょう。
- ② 課題（テーマ）が発表されたら、身近にある雑誌やカタログ、写真や実物などを意識して見ておくと、作業をスムーズに進めることができます。
- ③ 好きなもの、変わったもの、個性的なもの、綺麗なものなど、普段から色々なものに興味を持ち、そこから様々なことを感じ取れるようにしておくと良いでしょう。
- ④ 美術作品は本物に触れることで良い影響を受けることができます。機会があれば展覧会などへ、行ってみるのも良いと思います。

◇ テスト前の学習

- ① テストは、教科書や資料集、プリントや授業で行った内容等を中心に問題が出題されます。プリントや教科書、資料集等に目を通し、授業の内容をよく思い出しておきましょう。
- ② 配布されたプリント類は全て、ファイリングしておきましょう。

◇ １年間の学習内容（３年生）

前 期		後 期	
月		月	
4月 5月	・京都・奈良をテーマにした絵を描く	10月 ～ 11月	・京都・奈良をテーマにした絵をおぼんに着彩する。仕上げにニスをぬる。 ・後期中間考査(美術 30 分)
6月	・干し芋のパッケージデザインを描く ・着物について知る	12月	彫塑 ・テーマに基づいたものを粘土で作る
7月	・着物の文様について学ぶ ・日本美術について学ぶ		
8月	(夏休みの宿題) ゆかたのデザインをプリントに描く	1月 2月	・イラスト制作 ・調べ学習
9月	・京都・奈良をテーマにした絵をおぼんに着彩する。 ・前期期末考査(美術 30 分)	3月	旧原宿駅舎パーパーククラフト

◇ 評価

①「知識・技能」（評価資料：作品等提出物・定期考査 等）

対象や事象を捉える造形的な視点について理解をしているか、表現方法を創意工夫し、創造的にあらわしているかを評価します。美術的知識に基づいた言葉を覚えるだけでなく、表現や鑑賞において造形的な視点に基づく判断がなされているかや、創造的な技能が身に付いているかも見ます。

②「思考・判断・表現」（評価資料：作品等提出物・ワークシート・小レポート・定期考査 等）

造形的な良さや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考えとともに、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方が深められているかを評価します。最終的なアイデアのみでなく、それを生み出すまでの過程や、鑑賞活動においてどのような見方、感じ方をしたかも見ます。

③「主体的に学習に取り組む態度」

（評価資料：授業に取り組む姿勢・期限内提出・忘れ物の有無・ふりかえりシート提出 等）

美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に表現及び鑑賞の幅広い学習活動に取り組もうとしているかを評価します。学習過程で習得する「知識及び技能」や「思考力、判断力、表現力等」を、自らの課題に結びつけ、主体的に学習や制作活動の中で発展させていこうとする意欲を見ます。

保健体育の学習を進めるにあたって 全学年

☆保健体育の目標

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指します。

（１）知識・技能	（２）思考・判断・表現	（３）主体的に学習に取り組む態度
各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。	運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。	生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。

課題は：

- ①運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう自ら進んで運動し、公正、協力、責任などの態度を身に付けるとともに、健康・安全に留意して運動できること。
- ②自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、活動の仕方を考え、工夫できること。
- ③必要な運動の技能を高めることや、体力を高めるための運動の合理的な行い方を身に付けること。
- ④生活における運動の意義や必要性及び運動の特性と合理的な行い方を理解し、知識を身に付けること。

それを克服するために：

- ①授業の約束を守りましょう。
- ②「自分から」取り組みましょう
- ③自己評価（自分自身で）や相互評価（友達と）を大切にしましょう。

発展的な学習のために：

- ①教科内の科目の系統性や関連性
 - ・保健体育は3年間を通じて学びます。見通しをもって取り組むようにしてください。
 - ・単元（種目）ごとに、授業計画について説明します。
- ②学習への心構え
 - ・「保健」と「体育」の関連も重要です。
 - ・競技種目を行うことや勝敗を競うことだけが運動ではありません。運動に対し苦手意識をもっていたり運動は嫌いと思っている人も、新たな気持ちで授業に臨んでください。
 - ・与えられた運動をただ行うだけでなく、自分や仲間の課題がどこにあるのか、課題の解決のためには何をどのようにすればよいのかなど、積極的に課題の発見や解決に取り組んでください。
 - ・体育にとっての「学力」とは、基礎的な知識・技能のもとに意欲をもって「運動を実践する力」です。普段の生活の中でも運動の実践に心がけてください。
 - ・保健にとっての「学力」とは、幅広い知識と柔軟な思考力に基づいて判断することなど「考える力」です。他者と切磋琢磨しつつ変化に対応する能力や資質を養っていけるよう心がけてください。

☆授業の進め方

- ① 実技の授業は指定の体操着で行います。活動場所は単元によって校庭、体育館1階、体育館2階で行います。準備運動やトレーニングを行った後、その日の活動に入ります。毎時間、自己の目標達成に向け積極的に授業に取り組みましょう。
- ② 保健の授業は保健の教科書(3年間同じもの)を使用します。
- ③ 単元ごとに達成度を確認する実技テストを行うことがあります。

☆学習する上で注意すること

- ①健康管理は、各自でしっかりと行い、欠席、見学がないようにしましょう。体調が悪く授業を見学する場合は何かの用紙に家の人に理由を記入してもらい、印をもらって先生に提出しましょう。
- ②休み時間のうちに移動をし、開始時間に遅れることや、必要な持ち物を忘れないようにしましょう。
- ③授業中に怪我をしたり怪我をさせたりすることがないよう、集中して取り組み、お互いの安全に配慮しましょう。
- ④技能は常に自己の運動能力を考え判断し、それぞれの技能を高めるように取り組みましょう。
- ⑤実技テストがあった場合は必ず受けましょう。
- ⑥レポートや学習カードの課題は丁寧に仕上げて、期限を守り確実に提出しましょう。
- ⑦授業の目的を把握し、全力で取り組みましょう。

☆テスト前の学習

- ①実技テストは授業で繰り返し練習した基本的な内容です。授業内でより良く習得できるようにしましょう。
- ②知識を問うテストは保健や実技で学習したことが理解できているか、確認します。特に体育実技は体の動きや運動の行い方を言葉でも説明出来るようにしておくことが大切です。体育実技の教科書を熟読し、技能の名称やルールは正式な名称で正しく覚えましょう。(実技の教科書も3年間使用します)
- ③日頃から分からないことがあれば積極的に質問してください。

☆1年間の学習内容の例(令和8年度案)

前 期				後 期			
月	1年生	2年生	3年生	月	1年生	2年生	3年生
4	体づくり 体育理論	体づくり 陸上競技Ⅱ	体づくり 陸上競技Ⅲ ダンス	10 11	球技Ⅰ ネット型 武道Ⅰ	球技Ⅱ 武道Ⅱ	武道Ⅲ 球技Ⅲ (ゴール型)
5	新体力測定 陸上競技Ⅰ	新体力測定 器械運動Ⅱ	新体力測定 球技Ⅲ	12	球技Ⅰ バスボール型	球技Ⅱ	球技Ⅲ (バスボール型)
6	ダンスⅠ	ダンスⅡ	(ネット型)	1	球技Ⅰ ゴール型	(ネット型)	球技Ⅲ (ゴール型)
7	水泳Ⅰ	水泳Ⅱ	水泳Ⅲ	2		球技Ⅱ (ゴール型)	
9	器械体操Ⅰ	水泳Ⅱ 球技Ⅰ (バスボール型)	水泳Ⅲ 器械体操Ⅲ	3 通年	陸上競技Ⅰ 保健	球技Ⅲ (ゴール型) 保健	球技Ⅲ (ネット型) 保健

※本年度の「水泳」は、状況を判断し、実施を検討します。

※単元については、状況により、実施時期が前後することがあります。

※保健は、3年間で48単位時間程度配当しています。

☆評価の観点

〔体育分野 全学年〕	（１）	（２）	（３）
	運動の合理的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに実践するための理論について理解しているとともに、運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。また、個人生活における健康・安全について科学的に理解しているとともに、基本的な技能を身に付けている。	自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて、課題に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。また、個人生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して科学的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。	運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、運動の合理的な実践に自主的に取り組もうとしている。また、健康を大切にし、自他の健康の保持増進や回復についての学習に自主的に取り組もうとしている。

〔保健分野 全学年〕	（１）	（２）	（３）
	健康な生活と疾病の予防、心身の機能の発達と心の健康、傷害の防止、健康と環境について、個人生活を中心として科学的に理解しているとともに、基本的な技能を身に付けている。	健康な生活と疾病の予防、心身の機能の発達と心の健康、傷害の防止、健康と環境について、個人生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して科学的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。	健康な生活と疾病の予防、心身の機能の発達と心の健康、傷害の防止、健康と環境について、自他の健康の保持増進や回復についての学習に自主的に取り組もうとしている。

家庭科分野の学習を進めるにあたって 第 3 学年

○授業の進め方

「家族・家庭生活」を中心に学習をします。

【教室での授業】

☆教科書、プリントにそって進めます。

☆1 時間の授業には、「先生の説明を聞く時間」「自分の考えをまとめたり書く時間」「班やクラスで意見交換をする時間」があります。

【被服室・調理室を使う授業】

☆道具の使い方・基礎技法を確認します。

☆班員と協力して実習します。

☆全員が少しずつ分担して片付けます。

☆振り返りシートにその日の実習についてまとめます。

○学習するうえで注意してほしいこと

【1】持ち物

☆教 室……①教科書、②プリント、③筆記用具（色ペン 3色あるいは色鉛筆 3 色を含む）

☆被服室……①プリント、②筆記用具、③名前ペン、④小学校で使っていた裁縫セット、⑤その他指示したもの

【2】実習は、慎重かつ真剣に取り組みましょう。

【3】実習中は、自分や友人を傷つけないように安全に留意しましょう。

【4】プリントは**予告なく回収**しても自信を持って提出できるようにまとめましょう。

【5】実習中は、班で協力し友達の良いところを学びましょう。

【6】想像力をはたらかせて、授業の内容と生活を関連付けましょう。

【7】立ち歩きは禁止です。用があるときは手をあげましょう。

【8】黒板の内容と、先生の話の中で大切と思ったことは書き留めましょう。
（ヒント：何度も説明したこと・大きな声で説明したこと・色チョークを使ったとき など）

【9】提出メ切を守れるように最大の努力をしましょう。

【10】何らかの事情で授業に出席できなかった場合、**次の授業開始までに**提出物や持ち物を**自分で**確認しましょう。

家庭学習の進め方

☆学習内容に合わせて家庭学習を指示します。また、20 分でよいので、その日のうちに復習をしましょう。（勉強の目安時間はテスト前を除く。）

○テスト前の学習

☆教科書、プリントを見直す。

☆実習したことや授業で先生が話したことを思い出す。

※テストは**年間2回**です。毎回 50 点満点です。

○1 年間の学習内容

※状況により変更する場合があります。

前期		後期	
月	A家族・家庭生活	月	A家族・家庭生活
4	家庭分野のガイダンス 1 自分の成長と家族・家庭生活	10	3 幼児とのかかわり
5	2 幼児の生活と家族 幼児のころと今の自分	11	
6	幼児の体の発達について考えよう 幼児の心の発達について考えよう	12	
7	幼児の生活習慣の習得について考えよう	1	4家族とのかかわり 5 家庭生活と地域とのかかわり
8		2	6 家族と地域の高齢者とのかかわり 7 地域での協働を目指して
9	布絵本の製作 幼児の生活と遊びを知ろう	3	学習のまとめ

○評価

家庭分野では下記の 3 観点から総合的に判断します。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	日常生活に必要な家族・家庭・衣食住・消費・環境などについて理解しているとともに、それらにかかわる技能を身につけている。	日常生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決方法を考え、実践・評価・改善し、考えたことを表現するなどして、課題を解決する力を身につけている。	家族の一員として、生活をより良くしようと、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとしている。
方法	☆定期考査 ☆プリントなど	☆定期考査 ☆作品 ☆プリントなど	☆作品 ☆プリントなど ☆授業の取り組み

なお、技術分野と合わせて最終評価としますが、その割合は 5:5 です。

技術分野の学習を進めるにあたって 第3学年

☆ **3年 技術分野の課題は**

課題は：

- ①コンピュータの基本的な構成と機能、情報モラルについて学習する。
- ②情報社会における著作権について学習する。

それを克服するために：

- ①情報通信ネットワークと情報モラルを学習する。
- ②身近なところで著作権の実例を学習する。

発展的な学習のために：

- ①コンピュータの機能や発信した情報に対する責任を知ると共に、情報モラルについて考える。
- ②日常生活で著作権について考える。

☆ **授業の進め方**

技術の学習内容は「材料と加工に関する技術」「エネルギー変換に関する技術」「生物育成に関する技術」「情報に関する技術」の4分野になっています。

第3学年では、コンピュータの基本的な構成と機能、情報モラルを学習します。また、情報社会における著作権についても学習します。

後期においては、主に3年間の総合復習として、改めて情報モラルなどについて学習していきます。

☆ **学習する上で注意してほしいこと**

【技術室を使用するときには】

- ①大変危険な機械がたくさんあります。絶対に勝手に機械に触れないでください。特に技術室木材加工部屋の後部にある、丸鋸盤や自動かな盤は大変危険なので、鉄柵の後ろには入らないでください。
- ②工具を安全に取り扱ってください。のこぎりやキリで人を傷つけることがないように、細心の注意をはらってください。
- ③整理・整頓を心掛けてください。釘が1本落ちているだけでも危険です。

・絶対に技術室から物を持ち出さないでください。のこぎりやその他工具だけではなく、紙やスリや釘なども持ち出すことは厳禁です。

☆ **家庭学習の進め方**

技術分野では、家庭学習は特に必要ありません。そのかわりに、その日に学習した授業内容をよく復習してください。

☆ **1年間の学習内容**

前期		後期	
月	D. 情報に関する技術 ・情報通信ネットワークにおける基本的な情報利用の仕組み ・プログラムと計測制御	月	・著作権や発信した情報に対する責任と、情報モラル 3年間の総合復習として、改めて情報モラルなどについて学習
6		11	
7		12	
8		1	
9		2	
10		3	

※ 状況によって変更が生じることがある。

☆ **評価**

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	日常生活で利用されている、生活に関する技術について関心を持ち、技術の在り方や活用の仕方等に関する課題の解決のための知識・技能を身に着けている。	生活に関する技術を学ぶ中から、問題を見いだして課題を設定し、その課題を解決できるような力を身に着けている。	生活に関する技術を学ぶ中から、自分の生活に関わる技術の課題を解決するために、主体的に取り組み、改善、実践しようとしている。
方法	ノート、作業、テスト	ノート、作業、テスト	ノート、作業、テスト

技術分野の学習の評価は、上記3観点から行います。

教科としての評価は、技術分野（50％）＋家庭分野（50％）＝「技術・家庭」（100％）として成績を出します。もし、技術分野か家庭分野のどちらかが得意でよく頑張ったとしても、もう一方で手を抜いてしまえば良い成績はつきませんので注意して下さい。

英語の学習を進めるにあたって 第3学年

第3 学年学習到達目標

1. はっきりと話されれば、社会的な話題について、短い説明の要点をとらえることができる。
2. 社会的な話題について、簡単な語句や文で書かれたまとまりのある文章の要点をとらえることができる。
3. 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを簡単な語句や文を用いて述べ合うことができる。
4. 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを簡単な語句や文を用いて話すことができる。
5. 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを簡単な語句や文を用いて書くことができる。

☆授業の進め方

- ⑦ 帯活動（英語の歌、チャット等の言語活動、速読、語彙、文法など）
- ⑧ 前時の復習
- ⑨ 新言語材料の導入及び音読、もしくは発表活動
- ⑩ まとめ・課題の指示

☆学習する上で注意してほしいこと

英語は「実技教科」です。定期考査や入試で問題を解く力も大切ですが、実際に英語で聞いたり読んだりして理解する力や、話したり書いたりして表現できる力をつけることが大切です。3 年生では今まで積み上げてきたものにさらに磨きをかけ、実際のコミュニケーションで活用できる英語力を目指します。積極的に聞き、話し、読み、書き、コミュニケーションを楽しみながら、共に学習していきましょう。

☆家庭学習の進め方

教科書本文の学習

- (1) 教科書本文を5回以上音読する。
(途中で目を離しても言えるぐらい。デジタル教科書で音声聞いてから音読するとさらに効果的。)
- (2) 教科書を見て、本文を授業ノートに書く。(1 回目)
- (3) 教科書の新しい単語を授業ノートにまとめる。
- (4) ワークを各自で進め、丸付けをする。
- (5) Qubena や ELSA で達成目標に到達できなかった箇所を復習する。

その他の家庭学習

- ・授業中の課題（音読、スキット、リテリングなど）の練習。
- ・「ワーク」「高校入試問題集」に取り組む。

※授業内容が定着できたか、家庭学習できているかをチェックします。(教科書の音読、ライティングなど)

☆テスト前の学習

- (1)教科書の本文を改めて音読できるか、日本語に直せるか、書けるかチェックし、できないものはライティングノートに覚えるまで書いて練習する。
- (2)新英語のワーク、問題集をもう一度解く（解説などを活用）。間違えたところは正解するまで解く。
- (3)自分で解決できないところは、そのままにせず、質問したり調べたりして分かるまで学習する。

☆1 年間の学習内容

月		月	
4	Unit 0	6	Learning SCIENCE in English
5	Unit 1		Let's Listen 2
	Let's Write 1	7	Unit 3
	Let's Listen 1		Let's Write 2
	Unit 2		Grammar for Communication 2
	Let's Talk 1		Stage Activity 1
	Grammar for Communication 1		Let's Read 1
月		月	
8		1 1	Stage Activity 2
9	Let's Listen 3		Let's Listen 5
	Unit 4		Unit 6
	Let's Talk 2		Let's Talk 3
	Learning CIVICS in English		Grammar for communication 4
	Let's Listen 4		Let's Listen 6
1 0	Unit 5	1 2	Stage Activity 3
	Let's Write 3	1	Let's Read 2
	Grammar for Communication 3	2	Let's read 3
			Speech

☆評価について

1 知識及び技能

評価方法：定期テスト、パフォーマンステスト、章末テスト、リスニングテスト

「知識」評価規準：英語の特徴や決まりに関する事項を理解している。

「技能」評価規準：実際のコミュニケーションにおいて、日常的な話題や社会的な話題について、

- ・はっきりと話された文章等を聞いて、その内容を捉える技能を身に付けている。
- ・書かれた短い文章等を読んで、その内容を捉える技術を身に付けている。
- ・事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて、伝え合う技能を身に付けている。
- ・事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて、話す技能を身に付けている。
- ・事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて、またはそれらを正確に用いて書く技能を身に付けている。

2 思考力・判断力・表現力

評価方法：定期テスト、パフォーマンステスト、小テスト

評価規準：コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題などについて、

- ・はっきりと話される文章を聞いて、必要な情報や概要、要点を捉えている。
- ・書かれた短い文章を読んで、必要な情報や概要、要点を捉えている。
- ・事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて、伝え合っている。
- ・事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて、話している。
- ・事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて、書いている。

3 主体的に学習に取り組む態度

評価方法：授業や課題の取り組み状況、自己の学習状況を把握し、粘り強く改善しようとする姿勢、

ノートやワークブックの記入状況、パフォーマンステスト

評価規準：外国語の背景にある文化に対する理解を深め、

- ・話し手に配慮しながら、主体的に英語で話されていることを聞こうとしている。
- ・書き手に配慮しながら、主体的に英語で書かれていることを読もうとしている。
- ・聞き手、話し手に配慮しながら、主体的に英語を用いて伝え合おうとしている。
- ・聞き手に配慮しながら、主体的に英語を用いて話そうとしている。
- ・聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に英語を用いて書こうとしている。

以上を総合的にまとめ評価する。